

平成17年9月6日大水害

あれから10年

教訓は生かせるか：

>11<

杉尾 哲氏 基調講演
平成17年台風14号大水害の教訓



台風14号の雨は秋雨前線の雨と一緒に降った非常に危ない雨で、上流で降った異常な流量が下流へ流れてきました。川は下流に向かってだんだんと現象が現れるわけですから、上流でどんなことがあったというのは下流の人には分かるわけです。それが津波と違うところなんです。というところになる

と、行政は上流の状況を監視カメラの情報として取れるわけなので、きちんと住民の方に危ない状況が起こっているということを伝えたいといけないうんです。

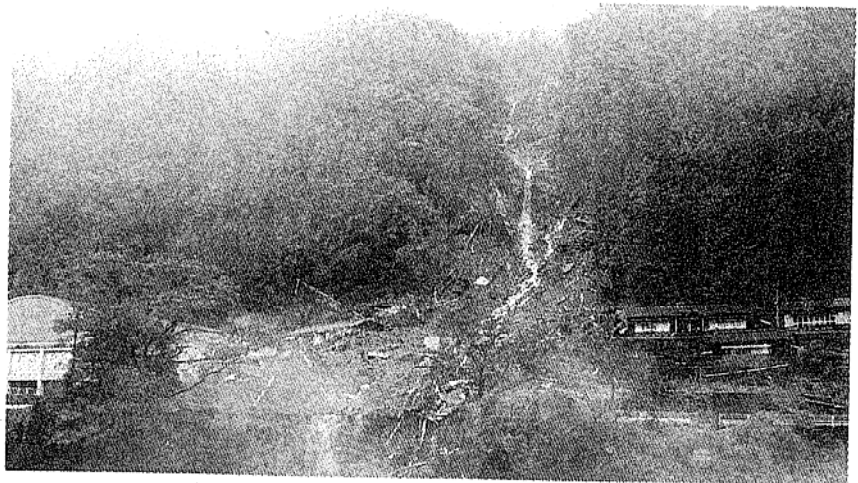
家には安全かどうかは、内水氾濫ならう階段に逃げれば大丈夫かもしれないが、川の水があふれて家を襲うという外水氾濫は家においても助からないと思いますので、そうしたことを考えないといけません。浸水しなかったのに住民が避難した宮崎市内の地区は、自衛隊の土の積みが行われた場所でした。それから、大淀川の状態を伝える映像として、この地区が前日の夕方から繰り返してテレビに写されていたんです。

そのため、「テレビで危険だと分かった」と聞くと、アメリカでは「これは、この地区が前日の夕方から繰り返してテレビに写されていたんです。」といかと思えます。実は台風14号の1週間ほど前、アメリカでは「これは、この地区が前日の夕方から繰り返してテレビに写されていたんです。」といかと思えます。

はカトリナというハリケーンがニューオーリンズ市を襲ったというところ、危機が差し迫った状況になりました。その際、ニューオーリンズの市長がテレビに出て、「このハリケーンが来た時に助けてください」といいた方がいいんじゃないかと思えます。

異常な事態、分かれれば避難

今までと違うちゃんと伝える必要



民家8戸が被災した白之影町楠元住宅の土右流。早めの避難で人的被害はなかった（平成17年9月6日）

と言われている市は助けられませんか。そうなる前にニューオーリンズ市から逃げてください」と直接テレビで訴えて、大渋滞が起るぐらい皆さんワッと逃げたわけです。

やはりこういうふうな、異常事態、今までと違うんだということを伝えたいといけないうんです。延岡市であれば首藤市長さんがケーブルメディアワイワイに出て、「今回はとてもじゃないけど危ないので避難してください」と言っていた方がいんじゃないかと思えます。

防災・減災を考える
シンポジウムから――